

## 令和2年7月豪雨に係る災害廃棄物処理見込みについて

### (1) 発生推計量 ・ ・ ・ 約37万t

環境省が示した「災害廃棄物対策指針（H30.3月）」に基づき、床上・床下浸水の戸数、全壊・半壊戸数等（R2.8.25現在）と、被災家屋あたりの災害廃棄物発生量（過去の災害に基づき国で算定）により推計。

#### 【参考】主な水害事例の災害廃棄物発生量

- ・ R1台風第19号災害（長野市21.2万t（計画））
- ・ H30年7月豪雨災害（倉敷市34.3万t）
- ・ H29九州北部豪雨（朝倉市35.7万t）

### (2) 処理期間 ・ ・ ・ 発災後1年6ヶ月以内（R3.12月まで）の処理

災害廃棄物の発生推計量を踏まえ、解体工事と廃棄物処理の予定、また被災者が家屋等の解体について検討される期間等を考慮して設定。

#### 【参考】処理期間の比較

